

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第68号 2013年3月1日発行

2013
3
月号



小田急江ノ島線高座渋谷駅より西へ徒歩7分ほどの常泉寺参道に沿って植えられたミツマタが評判です。枝の先端が三又に分かれていることに由来しているとのこと。



中村好花さんからのメッセージ

ここ大和から思いやりの気持ちがハートになって世界に広がっていくことをイメージして描きました。これからも多くの方が助け合って生きていくことのできる世の中であってほしいです。ありがとうございました。

絵・「世界に愛を広げたい」中村好花(よしか)(南林間中3年)

やまと国際フレンドクラブ(IFC)主催

『第5回やまと国際アートフェスタ』入賞作品

IFC 賞・3回シリーズ(その3)

本紙「あの手この手」は来年度4月からリニューアルします。

この1年間、担当1名を制作担当とし、週1回の制作会議で編集・校正を経て、毎月1日に発行してきました。発行者[拠点やまと]のスタッフ編成替えにともない、よりよい広報紙を目指して、次の4/1号から紙面をリニューアルします。月毎に制作担当は交代し、制作要員全員がPCに直接入力することを役割として、[拠点やまと]会長・副会長や市担当者を含めた総意を結集します。取材による記事を増やしてまいります。

<送付の際、同封のご案内>

- ・ボランティア見学会参加団体募集のご案内
- ・第8回やまと国際交流フェスティバルのご案内・3/17(日)
- ・第57回連続共育セミナー・NPO会計「活動計算書」の作り方・3/19(火)開催

*「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

安定的・継続的な「センター」運営のため、他市センターの運営方法を調査・分析し、今後の方向性をまとめました。以下、主な改善点をお知らせします。できることから、逐次実行していきます。

●イベントカレンダーの設置

今、どのような市民活動イベント・事業が動いているか、大きく壁面などで分かるようにします。

●メール便取り次ぎ業務の実施

「センター」で事務処理した書類を対象にして、「クロネコメール便」を1通当たり80円で取り次ぎします。(取扱を始めています)

●ボランティア受け入れ募集

夏休みの中・高生「ボランティア体験」は全登録団体に対し募集を掛けます。

●ボランティアの「体験お試し」

コーディネートしたボランティアと受け入れ団体とのつながりをフォローする・仲人役を務めます。

●高校生等ボランティアの強化

イベントなどへの、高校生等ボランティアの主体的関わりを支援します。

●関連組織との情報交換会を企画

定期的会議の開催で個人ボランティアの共有化、マッチング、そして各機関が独自に行っている事業の情報交換をし、運営事業の拡充を目指します。

●若者層のスタッフを募集

若者の目に留まる、沿線の大学などスタッフ・インターン募集など「センター」情報を流し、つながりをもっていきます。

●「相談」のデータベース化

「センター」に寄せられる「相談」を些細なことでも記録して、データベース化し、運営に役立てます。

●「センター」体制の充実

スタッフの研修機会を増やします。サポーターの組織化を図ります。



お知らせ

平成 25 年度市民活動推進補助金・協働事業等提案制度

4月から募集が始まります。

募集要項は大和市役所HPに3月中旬にUPします。

※昨年と日程が異なります。ご注意ください。

相談会のお知らせ

平成 25 年度の個別説明会&相談会を

4月6日(土)13:00~17:00

大和市民活動センター会議室で行います。

平成 24 年度(昨年度)事業報告会

4月25日(木)

10:00~12:00(市民活動推進補助金)

13:00~16:00(協働事業等提案制度)

会場:大和市勤労福祉会館3F ホール

どなたでも参加できます。

活動をPRし、つなげましょう

市民活動課主催

ボランティア見学会のバスツアー

3月14日(木)10:00~16:00

見学会の参加者はボランティアをしたいと前向きな方々です。最後に「センター」来訪、ツアーのまとめを行います。この機会にあなたの活動をPRして、お仲間をGETしましょう。

バスツアーの流れ;大和YMCAライフサポートセンター⇒自然観察センター・しらかしのいえ

⇒大和市民活動センター 14:30~15:30(予定)

※PRしたい団体は3/9(土)までに「センター」宛に申込み、当日 14:30 に集合してください。

2月26日(火) 晴れ

大和ちよい呑みフェスティバル実行委員会のメンバーYさん「ちよい呑みの2日間、雨なしでいけそうです」と、自信と不安の目で空を見上げ、「晴れ」を祈っているようでした。

願いが通じて、雨なしの2日間。にぎわい復活の大和市が見えたような…。(T.K)



次回の
第 57 回

連続共育セミナー

テーマ:NPO 会計「活動計算書」の作り方
～活動の 整理整頓・次への準備

お 話: 税理士 板倉 幸子さん

NPO法人 税理士による公益活動サポートセンター理事
(NPO等支援部部长)
一般社団法人 公益アシストかながわ 理事
認定NPO法人 NPO会計税務専門家ネットワーク 理事

と き:3月19日(火)18:30~20:30

ところ:大和市民活動センター

会 費: 500 円(資料代)

事業のくくりの時
期です。
NPO法改正があ
って、提出書類が変
更になり、書類の作
り方に不安を感じ
ている方も多いの
では?
ご参加をお待ちし
ております。

申し込み:(先着 20 名)

大和市民活動センター 電話 046-260-2586



※ 別途、「無料相談会」を予定しています。

3/28(木)15:00~17:00

場所:大和市民活動センター

要予約

みんなで盛り上げ、さまざまな外国籍の人と交流

第8回やまと国際交流フェスティバル

日時:3月17日(日)10:00~15:00

会場:大和駅東側プロムナード

主催:(公財)大和市国際化協会

大和市は外国籍の方が多自治体です。
当日、ステージではアンデス、中国、フィリピン
ブラジル、スリランカの民族舞踊などパフォー
マンス。テントではエスニック料理、外国国民
芸品・茶菓子もあり、外国文化体験・多国籍
おしゃべりやスタンプラリーなどが繰り広げ
られます。



「センター」は今年も参加します。

2/20(水)大学生ボランティアが準備作業に
加わり、若い意見を反映しています。

<今後の打合せ、作業予定>

3/2(土)、3/9(土)、3/14(木)

各日とも 14 時から 場所:「センター」

お国はどちら? 折り紙をおみやげに。
さまざまな外国籍の人と交流しましょう!

※「センター」が参加するネタは「センター」PR。
登録団体の国際交流。ボランティア機会の提供。

日々街づくりをして、きれいになっています。

第 17 回大和市街づくり賞(平成 24 年度)は「歩くのが楽しくなる街並み」がテーマ。
事例部門 3 件と活動部門 1 件が選ばれました。それぞれ 1 件について紹介します。

メインストリートを草木で彩る

<事例部門/貢献している建築物など>

大和駅東側プロムナードガーデニングプロジェクト
(大和東)

始めて 2 年目になります。プロジェクトに参加された
方の自主性におまかせし、年間を通して維持されて
います。更に、市内で適地があれば広げていき、きれ
いな草木に彩られた街にしたいと思います。

(大和市イベント観光協会)

子どもたちもいっしょに街をきれいに

<活動部門/その維持管理をしている個人・団体>

西南自治会クリーン・キャンペーン(南林間)

街路の清掃のほか、ゴミの放置への対応などに積極
的に取り組んでいます。子どもたちも一緒に参加して
います。「安全・安心・きれいで 住みよいまち 西南
自治会」のスローガンをいろいろ
なところに表示して“共力の輪”を
広げています。(南林間西南自治会)





大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。
本年度最終2013年3月号(第68号)をお届けします。

寄る辺なき「老人漂流社会」がじわじわとこの日本に広がっているということを前号の「お届け文」にまとめ、また改めて情報収集中の矢先、今月 2/8 (火) の夜、長崎市にある高齢者、認知症の患者も入居していたグループホーム「ベルハウス東山手」から出火し、4 人の高齢者が死亡するという痛ましい事件がありました。

そして、こうした事件を報じる新聞の見出しは呪文のような繰り返しが常です。「失火当時、職員はひとり (あるいは「ふたり」)、スプリンクラーの設置なし」。

今、日本で続いて起こっている高齢者の非業の死の連なり……。

高齢になり身体が不自由になる、あるいは認知症を発症する。自宅で、まわりが介護しきれなくなると、その高齢者はどこかのグループホームを経て、施設や病院にはいる。そして、それはほとんど戻れずの一方通行。いや応なく病院という場所で死を迎える。今や日本での「普通の流れ」のようです。これは「どんどん隔離のコース」になっているのではないか。前号に記した言葉ですが、はたしてこれは「高齢者の尊厳」ある選びなのか。

住み慣れた場、地域、街で暮らし、生き、生活を続け、ここで生をまっとうしたい。「隔離されない」生き方の選びは高齢者にとって今の時代、贅沢なことなのか。

さて、その「住み慣れたところ」。

確かにさまざまな場で目に見える街のバリアフリー化は進んでいる。ケアサービスの制度もある程度整ってはいる。でも、今の日本に「ここにいて、いいんだ」という呼応しあう人間の温かな「コミュニティ」がはたしてあるのだろうか。

そんなことを考えていたときに一冊の書籍(「住みつなぎのススメ」～高齢社会をともに住む・地域に住む～住総研高齢期居住委員会編著/萌文社)に出会った。そこに「モノによる対応にも制度的なサービスにも限界があり、そこからこぼれ落ちるものがある。(中略) 隙間を埋めるものは地域における「人のつながり」に違いないのだが」と続き、「住まいやまちに再びそれらをはぐくみ、ともに地域に住んでいくために、住まいとまちをつなぎ、人と人をつなぐ住み方を実現していきたい。いわば『住みつなぎ住み方』である。」と。この 50 年を見ても住まい=住宅も商店もその造りが閉鎖的になってきました。これからは自らの住まいやお店を地域に開き、人々のつながりの拠点にしていく。地域ごとの特性をうまく生かす姿にする。そんな視点での日本全国の先進的な住まいづくり、まちづくりの例がいくつも載っていました。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2013/02/25



イラスト・望月則男